

≪華風新聞≫社会面 2015年6月12日付記事 「七十歳の老人が車上で大便」

【本紙電】春城晩報（※雲南省党委員会機関紙）によると、人々が通勤に利用する公共交通機関のバスで、先日、70余歳の老人が、車内に大勢の乗客が居る中、一枚のポリ袋を便器代わりに大便をし、乗客から非難を浴びるという出来事が起きた。

その日楊嬢が午前九時頃バス停に着くと、ちょうど二階建てのバスが来た。待たずに乗れた上、二階席には空席も有り、非常に気分が良かったのだが、その後事態は一変した。

バスが〇〇付近の赤信号で止まると、楊嬢の近くに座っていた老人がまっすぐ階段へ向かって歩いて行った。次の停留所で下りるんだろうぐらいに思い、気に掛けなかったところ、数秒後、「あんた、何してんのそんなとこで!? まア、けったくそ悪い!」という金切り声が階段の脇から響き、皆の目がそちらに集まった。

この時、楊嬢も異臭を感じながらそちらに目をやると、さっきまで近くに座っていたあの老人が階段の所で大便をしていた。一瞬、彼女は朝食が胃袋を逆流するような気持ち悪さを覚え、吐き気を催した。

乗客は、「どこの田舎もんが!」「公共のバスでよくそんなことを」「胸糞悪い、吐き気がする」等々口々に老人を責め、中には「早く下りろ! 消えろ!」の怒声も。

自分の行為がこんなにも怒りを買ったことに驚き、老人はすぐにチリ紙を取り出し“一戦”を終結させた。ズボンをたくし上げ、大便の“容器”代わりにした透明のポリ袋を手に取り、座席に戻ろうとしたのだ。

二階席から聞こえて来る怒声で運転手の李おばさんは、大体何が起きているのかわかったようだ。バスを路肩に止め、二階に上がると、老人は正に“群がる敵と舌戦の真っ最中”だった。自分も気分が悪かったが、運転手としての責任を思い、「おじいさん、バスは公共の交通機関なのよ。車内で排便なんかしちゃ駄目でしょう。具合が悪かったら、私にそう言ってくれなきゃ。」

「具合が悪かった。だからウンコしただけだ。出物腫物所嫌わずって言うだろう。まさか法律に違反しているわけじゃあるまいし…」と老人は言う。

「具合が悪かったというのはわかるわよ。だからと言って、好きな所で大便したり小便したりはやっぱり駄目でしょ」と李運転手。

「バスだって汚してないよ。モノは全部この中なんだから」と老人はポリ袋をぶらぶら揺する。

「バスの中が悪臭ふんぷんなんだ!」一人の男の乗客が責めるように言った。

「こうすりゃ臭わなくなるさ」と言うか言わぬうちに、老人はポリ袋を窓から外へ放り出した。その後、李おばさんは運転席に戻り会社に連絡、乗客は席を換わったり一階に移動したり、我慢できない人は途中で下りたりもしたが、老人は二つ先の停留所で悠々と下りて行った。

李おばさんの話では、老人が乗車した時、一階に乗るよう促したが、それを無視して上へ行った。あの一件が起きる前、車を止めてくれというようなことも全然無かったとのことだ。

記者が関係先に連絡を取ると、確かに老人がバスの中で大便をしたという事件が有り、該当車両は悪臭が充満したので暫時使用停止としたこと、消毒をしてから路線に復帰することになったことを確認した。